



万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japanese Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会(ISS/SIC)日本支部
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部外科教室
TEL：03-5363-3802 FAX：03-3355-4707
発行者：北川雄光
編集責任：万国外科学会(ISS/SIC) Japan Chapter.
Secretary General
和田則仁(慶應義塾大学医学部外科教室)
印刷：株式会社 dig TEL:03-3551-3060
年2回発行1995年4月創刊

ISW/SICの実情と 2011, Yokohama 会議の 開催をめざして

国際医療福祉大学副学長・
三田病院院長
President ISS/SIC
Congress President ISW2007

北島 政樹



ISW2007 がカナダのモントリオールで開催され、前号にも書かせていただいたが、日本色豊かな学会が会長として開催出来たと思っております。これも一重に日本支部会のメンバーおよび日本企業のご協力、ご支援のお陰と感謝しています。学会から早や6ヶ月が過ぎて、やっと肩の荷が降りたと思っておりますが ISW2009、アデレード（オーストラリア）の準備がすでに始まっており、プログラムも各学会から提出されています。

日本の出席メンバーの方々も記憶にあると思いますが今年の8月29日の総会で種々の事項が決定されました。

2007～2009年 Ken Bofford (South Africa)が President elect に、また 2007～2011年、Attila Csendes (Chile) と Rudiger Siewert (Germany)に代わって、Abdel-Hadi S.T. Al-Briezati (Jordan) と Tatsuo Yamakawa (Japan) が Councilorに選任されました。また不肖、私が ISS-Foundation の Theodor Kocher Benefactor に推薦・承認されました。

さて、2009年の Adelaide に於ける Congress President は Michael G. Sarr

(USA) が承認され、彼のリーダーシップのもと、学会が開催されますが、Vice President としては ISDS の Councilor でもある Tonia Young-Fadok (USA) と Guy Maddern (Australia) が 4 Integrated Societies の代表と共に選任されました。Adelaide の LOC President は P. Malycha (Australia) であり、New Zealand Chapter と協力して成功をめざし努力する決意を示しました。

さらにご存知と思われますが2011年には横浜で ISS/SIC が開催されますが、President, Masahiko Watanabe, Vice-President, Seigo Kitano, Secretary General, Yuko Kitagawa, Honorary President, Masaki Kitajima が併せ承認され、いよいよ日本チャプターの皆様のご協力のもと準備をする決意を新たにしました。会期は現在のところ、8月28日～9月1日ではありますが、総会時に会場から当日はイスラム教のラマダンに当たるので1～2週間延期してほしいと日本で考えられない要望がありましたが、F. Harderが柔軟な解答をいたしました。

さて、最後に ISW2013 の開催地が4カ国、すなわち Helsinki (Finland), Athens (Greece), Amsterdam (the Netherlands), Basel (Switzerland) から要望があり、それぞれが召致の為のプレゼンテーションを行い、その後投票が行われました。その結果、Helsinki:203points, Amsterdam:197points, Basel:197points およびAthens:163points ですが3月に常任理事会が Zurich で開催され諸般の事情を考慮し、最終決定がここでなされる事になっております。

日本チャプターも諸先輩のご努力により米国に次いで大きなチャプターに成長しましたが、皆様と共に ISW2011の成功を祈念し、鋭意努力したいと思っておりますので、ご支援の程、本紙をお借りし、お願いする所存であります。

ISW 2011 Yokohama 大会に向けて; —Reduced Executive Councilor Meeting の報告—

Councilor, ISS/SIC Executive
Committee ;

山川 達郎



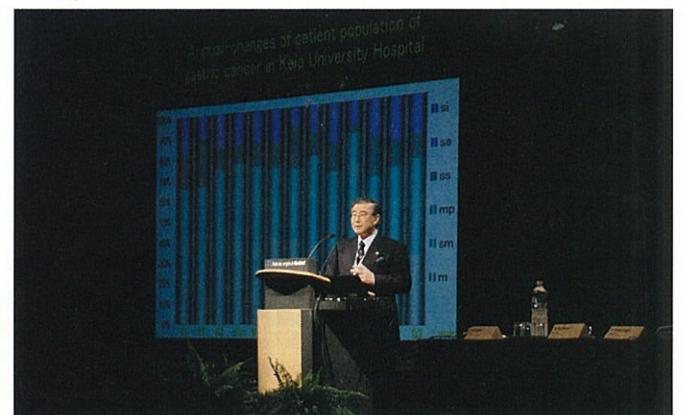
前号でご報告申し上げましたように、ISW 2007 Montreal 大会前日の2007年8月29日に開催されたISS/SICの総会において、私のISS/SIC Executive Committeeのmember 就任が承認され、2011年までの4年間、Councilorとして活動させていただくこととなりました。この記事は、私の Executive Councilorとしての最初の仕事である2008年3月14～15日の Reduced Executive Councilor Meeting の後の Conference Call が終わったあとで書くべきところではありますが、原稿の締め切りもあって、その Agendaと前回のMontreal 大会でのExecutive Meeting のMinutesをもとに、ISW 2011, Yokohama 大会をはじめとするこれからのISWに、ISS/SIC が描く期待をISWを私なりに纏めてみることにいたしました。

さて、ISW 2007は、北島政樹ISS/SIC前会長の卓越したリーダーシップのもと、私どもISS/SIC日本支部会員にとっては記憶に残る意義ある素晴らしい学会でありました。(写真1) しかしながらMinutesによると、pre-registrationをした参加者は、米国の政策でVisaの発注が得られなかった国もあったことも事実であります。10月にはAmerican College of Surgeonsが予定されていたり、Canadian Association of General Surgeryが2週後に予定されていたこともあって、事前登録した参加者は1200人に留まり、さらにQuebec 州や Montreal City の政界からの出席者は無論、地元の権威ある外科医の出席も少なく、参加者数は予想をはるかに下回ってしまったようです。また北島政樹前会長が、学会前、随分、心配され、自から奔走されておられていたことでもありましたが、商業展示やsponsored

Symposiumも少なく、さらに Program の発注も遅れ、余分な経費が加算されるなど、北島会長がご自分で負担された会長招宴費の一部を回しても、尚、大幅な赤字を計上してしまったことが Minutesに記載されています。この原因は、一にLOCの計画に細心な気配りと熱意が足りなかったことに帰すると非難が集中していました。

2008年3月14～15日、Duebendorf で、北島政樹前会長をはじめ Dr. M. Sarr (President of ISW 2009), Dr. F. Harder (Secretary General), Dr. K. Boffard (Treasurer), Mr. V. Bertschi (ISS/SIC) らによるReduced Executive Committee Meeting が行われ、その後で、私どもが参加してConference Call を行うことになっていますが、Executive/Program Committee は、直ちに今回の反省点を生かして、Adelaide ならびにYokohama 大会の成功にむけ活動を開始しました。それがこの委員会の目的でもあります。ISW2009、Adelaide大会の時には、ISW 2011-Yokohama Congress の Program Meeting も2009年の9月10日に予定されています。

北島政樹教授のISS/SICのPresidentとしてなされた偉大なるお仕事に、心からの感謝と敬意を表するとともに、北川雄光 National Delegate, Japan Chapter, ISS/SIを中心とするJapan Chapter は、北島政樹教授前ISS/SIC会長らが築かれたISS/SIC良き伝統を受け継いで後世に伝えていくと欲しいと念願しています。また日本支部会員は渡辺昌彦ISW 2009, LOC 会長のもとに一致団結して、これを成功に導くべく今から準備を進めていくと欲しいと期待しています。会員諸兄の絶大なご支援とご協力をお願いして止みません。



(写真1) Presidential Address を行う北島政樹教授

万国外科学会を
成功に導くために北里大学医学部 外科教授
渡邊 昌彦

先日、大阪大学の門田先生とある雑誌の企画で対談しました。もともと外科学研究の将来について語り合うはずでしたが、外科医志望者の減少と劣悪な医療の現状が課題の対談になってしまいました。門田先生は外科学会の会長講演で、我が国の外科の危機について熱弁を振るっておられました。確かに過重労働が招く外科医の低いQOLとそれに見合わない対価は、研修医が外科を避ける結果となっています。われわれも日々の臨床に忙殺され、研修医に外科学の魅力を伝えきれずにいます。ただし多くの医学生が治療学に興味を持っていることは、今も昔も変わっていないように思います。治療学の根幹を成す外科学を衰退させないためにも、学問としての外科学の魅力を後進に伝える努力が現役の外科医には課せられています。

学会はこれまで先進的研究の発表と議論、教育的プログラムの展開、研究者同士の交流の場に用いられてまいりました。また近年は医療のかかえる問題、とくに医療経済や行政に関わる課題について、学会を通じて話し合われることも少なくありません。すなわち学会の在り方そのものが、少しずつ変質してきているのかもしれませんが、医療を取り巻く環境が整備されなければ、外科医も研究に勤しむ余裕を持てるはずもなく、学会として医療問題に取り組むのも必然でありましょう。また学会は学問や教育の場であるとともに、人的交流のきわめて重要な場でもあります。しかし学会の開催そのものが、年々経済的に厳しくなってまいりました。最近でも学会の数は増え続けており、そのため企業の資金援助が個々の学会で得にくくなっていることが大きな要因かもしれません。また学会は個別に専門医制度を立ち上げてまいりました。専門医の資格を得るために、会員には学会や教育集会への参加ならびに登録費の納入が義務付けられます。したがって会員の負担は増すばかりであり、たとえ興味がある学会でも専門医取得に関係なければ経済的、時間的に参加を断念せざるを得ないこともあるでしょう。

このような状況で我々は国際学会の位置づけをもう一度見直して、実りのある学会を企画しなければなりません。世はインターネットのお陰で世界中の情報が瞬時に手に入り、必要に応じてテレビ会議を行うことも難しくありません。医学雑誌も電子化され紙媒体は衰退して、論文へのアクセス数とその価値を図る手立てとなっています。したがって総花的な国際学会は、日に日に変質せざるを得ないのではないかと思います。現状に照らし権威と伝統ある本学会の在り方を、会員の皆様と模索していきたいと考えております。とくに国内外の若手外科医がこぞって是非参加したいと思うような、魅力的なプログラムを作らなければならないのです。学会を通じて先駆者達の肉声をきき、さらに彼らと交流を深めて世界を身近なものにできる素晴らしいチャンスを創り出していきましょう。本学会の企画に際し、会員の皆様の忌憚りの無いご意見にこれからも耳を傾けていきたいと思ひます。

National Delegateを
担当させて頂くにあたって慶應義塾大学医学部 外科学教室教授
北川 雄光

ISW 2007 Montreal 大会は、我々日本支部メンバーにとっても大変心に残る素晴らしい大会として無事行われました。北島政樹会長、そして会長を支えて下さった日本支部の先生方に心から感謝申し上げます。また、一方でモントリオールLOCの運営体制などにおいて将来に向けた課題がいくつか指摘され、ISW 2011, Yokohama 大会を控えた我々にとってもいろいろな意味で勉強になりました。ISS/SICそして、ISWが若い外科医にとって魅力的な組織、学術集会としてさらなる発展を遂げることができるかどうか、大きな岐路に立たされているような気も致します。

そのような折、これまでNational Delegateとして日本支部を支えてこられた山川達郎先生が ISS/SIC Executive Committee の member, Executive Councilor にご就任され、私が山川先生の後任として National Delegateを担当させていただくことになりました。伝統ある ISS/SIC 日本支部のNational Delegateを仰せつかりましたことは、身に余る光栄と存じます。しかしながら、数々の国際舞台で活躍され、国内はもとより国際的にも高名な山川先生の後任としては、私自身甚だ力不足の若輩です。私のような者に務まりますかどうか不安ですが精一杯努力いたしますので、ご指導ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

日本支部は ISW 2011, Yokohama 大会に向けてすでに始動しておりますが、私は渡邊昌彦 ISW 2009, LOC 会長、北野正剛LOC 副会長のもとで Secretary Generalを務めさせて頂くことになっております。北野正剛教授は本年9月にISW 2011と同じ横浜で第11回世界内視鏡外科学会を会長として主催なさいます。その大いなるご経験も我々横浜 LOCの大きな力となるのではないのでしょうか。ISS/SIC日本支部の先生方におかれましては今後とも末永くご指導、ご支援を賜りたく存じます。とくに、若い先生方の要望、本音をお聞かせ頂いて魅力ある学術組織、学術集会を目指して参りたいと思いますのでどうかよろしくお願い申し上げます。

会員動向 (2008. 4)

会員数	361名
内 訳	アクティブメンバー 329名
	シニアメンバー 29名
	名誉メンバー 3名

支部活動報告

2007. 11.30	第24回万国外科学会(ISS/SIC) 日本支部総会 (於: 横浜 Inter Continental The Grand YOKOHAMA)
2007. 11.30	万国外科学会(ISS/SIC)日本支部ニュース第25号発行
2008. 3	万国外科学会スイス本部へ寄付(EUR1,900:2007年と2008年分)
2008. 5.17	第25回万国外科学会(ISS/SIC) 日本支部総会 (於: 長崎 ホテルニュー長崎)
2008. 5	万国外科学会(ISS/SIC)日本支部ニュース第26号発行

短時間作用型 β_1 選択的遮断剤劇 指 定 医 薬 品
処 方 せ ン 医 薬 品 (特)
注射用 **オノアクト®**
注射用塩酸ランジオロール ONOACT®
薬価基準収載

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること。

資料請求先

小野薬品工業株式会社
〒541-8564 大阪市中央区久太郎町1丁目8番2号

080201

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等、
詳細は製品添付文書をご参照ください。

中外製薬
Roche ロシュグループ

5-HT₃受容体拮抗型制吐剤
劇薬、指定医薬品、処方せん医薬品(注)

カイトリル® KYTRIL®
塩酸グラニセトロン製剤

注 1mg・3mg
点滴静注用3mgバッグ
錠1mg・2mg 細粒0.4g

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること
(R) F. Hoffmann-Laroche (スイス) 登録商標

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む
使用上の注意、用法・用量に関連する
使用上の注意等については製品
添付文書をご参照ください。
<http://www.chugai-pharm.co.jp>

(資料請求先)
製造販売元 **中外製薬株式会社**
〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1
2006年9月作成

ご挨拶

事務局長（慶應義塾大学医学部外科）
和田 則仁



この度、ISS/SIC Japan Chapter の Secretary General を拝命することになりました。100余年の伝統ある万国外科学会（ISS/SIC）の、このような重要なお仕事を仰せつかり、誠に身の引き締まる思いであります。微力ながら、北川雄光教授を補佐して日本支部事務局をお手伝いさせていただきたいと存じます。

日頃、海外の学会では、つい現地の観光や仲間との食事のため、学会の公式行事を蔑ろにしがちですが、昨年モントリオールで開催されました第42回万国外科学会では、会長を務められた前教授の北島政樹先生のお手伝いをさせていただくこともあり、会長講演やGalaディナーに出席させていただく機会に恵まれました。そこでは世界のトップレベルの外科医が一堂に会する中にも、和やかなムードで各国の参加者が懇親を深めるのを目の当たりにし、

本学会の意義を再認識いたしました。

また、会期中、一緒に行った家族とともに学会主催のLaurentian Mountainsの日帰りツアーに参加しましたが、そこでも多くの知り合いを得ることができました。特にバスですぐ近くの席に座っていらっしゃったハンガリーのジョセフ・シャンドール教授にはとても親切にいただき、家族ともども楽しいひと時となりました。一昨年、東京・六本木で北島政樹先生を会長として第2回日本ハンガリー外科学会が開催され、私は、吉田昌先生（国際医療福祉大学三田病院）と共同でSecretary Generalを務めさせていただきました。その際にも、シャンドール教授にはハンガリー側のホスト役として大変お世話になったばかりで、今年の9月8日から9月10日までブダペストで開催される第3回日本ハンガリー外科学会で再びお会いできるのを楽しみにしているところであります。

このような外科医の国際的な交流はとても意義深いことではありますが、その一部を事務局としてお手伝いできることを大変光栄に存じます。とはいえ不慣れなことで会員の皆様には何かとご迷惑をおかけすることになるのではないかと心配しております。お気づきの点がございましたら、何なりとご叱咤いただければ幸いです。末筆ながら先生方には引き続き変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2007年 決算（2007年1月1日～12月31日）

日本円の部

ISS/SIC
単位：円

I 収入の部	予算額	決算額	備考
会費	1,200,000	2,672,563	外貨通帳→日本円通帳間預替
広告掲載料	400,000	150,000	
雑収入	0	19,500	
利息	0	739	
当期合計	1,600,000	2,842,802	
前年繰越金	1,170,528	1,170,528	
収入合計	2,770,528	4,013,330	
II 支出の部			
会議費	300,000	284,505	2回分
通信費	200,000	178,120	
印刷費	450,000	498,230	ニュースレター12回発行
文具費	50,000	38,229	
交通費	150,000	75,780	出張旅費
人件費	150,000	270,000	
他誌広告費	0	0	
謝礼	80,000	0	
雑費	10,000	0	
予備費	60,000	0	
支出合計	1,450,000	1,344,864	
収支残高	1,320,528	2,658,466	

ユーロの部

単位：ユーロ

収入の部	予算額	決算額	備考
会費	9,500.15	16,680.95	入金：2007/02/16 後日日本支部会運営費として日本円通帳へ
利息	0.00	17.92	
繰越金			
収入合計	9,500.15	16,698.87	
支出の部			
日本円へ預替		16,698.87	2,670,817 円日本円の部、会費収入へ
スイス本部寄付	0.00		
支出合計	0.00	16,698.87	2,670,817 円日本円の部、会費収入へ

US\$の部

単位：us \$

収入の部	予算額	決算額	備考
会費	0.00		
利息	0.00	16.02	
繰越金	0.00		
収入合計	0.00	16.02	
支出の部			
日本円へ預替	0.00	16.02	1,746 円（日本円）
スイス本部寄付	0.00		
支出合計	0.00	16.02	

残高 日本円 2,658,466 円（通帳残高2,367,565 円＋現金290,901 円）
米ドル 0.00 us \$
ユーロ 0.00 ユーロ

ISS/SIC 万国外科学会 日本支部

2008年1月16日

監事 田中雅夫



2008年 予算案（2008年1月1日～12月31日）

日本円の部

ISS/SIC
単位：円

収入の部	予算額	備考
会費	1,200,000	スイス本部より振込み
広告掲載料	400,000	
雑収入	0	
利息	0	
当期合計	1,600,000	
前年繰越金	2,658,466	
収入合計	4,258,466	
支出の部		
スイス本部へ寄付	80,000	
会議費	300,000	2回分
通信費	200,000	
印刷費	450,000	ニュースレター2回発行分
文具費	50,000	
交通費	150,000	出張旅費
人件費	240,000	
他誌広告費	0	
謝礼	0	
雑費	10,000	
予備費	30,000	
支出合計	1,510,000	
収支残高（2009年繰越金）	2,748,466	

ユーロの部

単位：ユーロ

収入の部	予算額	備考
会費	9,500.00	
利息	0	
繰越金	0	
収入合計	9,500.00	
支出の部		
日本円へ預替	8,000.00	日本円の部、会費収入へ
スイス本部寄付	1,500.00	
支出合計	9,500.00	
2009年繰越金	0	

◇お知らせ◇

International Surgical Week ISW 2009

Adelaide, Australia, September 6 – 10, 2009

Important Deadline January 4, 2009

Deadline Abstract submission February 27, 2009

Submission of grading by reviewers March 31, 2009

Information of acceptance or rejection to presenting authors April 30, 2009

Deadline registration for presenting authors

Submission of final changes in program of Societies

プロトンポンブインヒーター 【薬価基準：収載】
指定医薬品 処方せん医薬品^{※1} 注）注意—医師等の処方せんにより使用すること

タケプロン® カプセル15・30
OD錠15・30
静注用30mg
（ランソプラゾールカプセル&口腔内崩壊錠、注射用ランソプラゾール）

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については「添付文書」をご参照ください。

〔資料請求先〕
武田薬品工業株式会社
〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
http://www.takeda.co.jp/

(0803)

カルバペネム系抗生物質製剤 ———— 指定医薬品、処方せん医薬品^{※1} 【薬価基準収載】

フィニバックス® 点滴用0.25g
キット点滴用0.25g

FINIBAX® （注射用ドリベネム水和物 略号：DRPM）
注1）注意—医師等の処方せんにより使用すること

効能・効果、用法・用量、禁忌、原則禁忌、使用上の注意等については添付文書等をご参照下さい。
製造販売元〔資料請求先〕
シオノギ製薬
大阪市中央区道修町3-1-8 〒541-0045
電話 0120-956-734（医薬情報センター）
http://www.shionogi.co.jp/med/

Ⓔ 登録商標 2008年2月作成B62

ISW 2011に向けて

山川達郎 Councilor in the ISS/SIC Executive Committee

1905年に始まる万国外科学会の歴史は、外科の歴史そのものである。このような権威ある学会を日本において主催することはISS/SIC日本支部会の長年の念願でもあった。この招致運動は、出月康夫教授がISS/SICのPresident（1995－1997）をお務めになっておられたAcapulcoでの ISW1997に端を発する。その頃から日本支部会会員数が急激に増加し、現在は米国に次ぐ会員数を誇る世界第2位の支部に成長したこともあるが、さらに北島政樹教授がISS/SIC会長（2005－2007）にご就任なられ、先生のそこでの活躍とご尽力のお陰でここようやく実を結び、この度ISS/SIC 2011が横浜において開催されることが決定したわけである。出月康夫教授ならびに北島政樹教授ならびに比企能樹前Councilorの卓越したリーダーシップなくしては到底なしえなかった快挙といえることができる。1977年、故斎藤 溥日本医科大学名誉教授がLOCのPresident として第27回ISWが京都において開催されてから実に34年ぶりの本邦開催となるわけであるが、私ども日本支部会員にとっては大きな誇りであり、何としても成功させなくてはならないと思う。

私は、昨年のISW 2008 でCouncilorにご指名いただき、Montrealでの会期中に開催されたExecutive Board MeetingにはGuestとして、また去る本年の3月15日に

Dübendorf, Switzerlandにおいて開催されたReduced Executive Board MeetingにConference Callの形式ではあったが、参加させていただいた。そこで少しばかりのCouncilorとしての役割を勉強させていただいたわけであるが、その中で、渡辺昌彦教授、President, LOC of ISW2011が、来るISW2009時に公表しなくてはならない事項、日本支部会として直ぐにでも準備を始めるべき事項について、気がついたことをここにまとめてみることにした。

1. LOC, ISW2011の結成とCongress Vice President の選出
2. Local Participating Societiesの選出と協力依頼、ならびにLocal Societies 会員のRegistration Feeの決定
3. Integrated (ISDS, IAES, IATSIC, IASMEN, BSI) and Participating Societies; International (AAST / APIMSF / EAES / FELAC / ICLAC / IFSES / IFSO / ISBI / ISDE / OESO / SAGES / ELSA / WOFAPS) or Local Societies の list の作成と協力依頼
4. Local Heroの決定
5. 学会会場の紹介
6. Accommodationの状況

その他、ISW 2009 Adelaide での Executive Board Meeting, General Meeting や Receptionなどにおいて、渡辺昌彦教授がPresident, LOC of ISW2011として上記事項について報告しなくてはならないので、準備できるところから開始すべきであろう。会員諸兄のご協力を切にお願いするものである。

第24回万国外科学会（ISS/SIC）日本支部会議事録

2007年11月30日金曜日 午前7:00～8:00

於：Room Bay View, intercontinental Grand Yokohama, 3F

議事録

出席者：愛甲 孝、秋丸琥甫、出月康夫、宇山一朗、海野倫明、岡 正朗、北川雄光、北島政樹、木村 理、小西敏郎、曾和融生、田尻 孝、田中淳一、谷川允彦、中尾昭公、梨本 篤、松本純夫、丸田守人、矢永勝彦、山口幸二、山名秀明、渡邊昌彦（敬称略；五十音順）（事務局；山川達郎、駒ヶ嶺さゆみ）

支部長開会の挨拶：北川雄光支部長

1. ISW 2011がISS/SIC前会長の北島政樹教授のお力で横浜で開催されることが決定したことを受け、Local Organizing Committee(LOC) のPresidentに渡辺昌彦北里大学教授が選出されたことを再度報告し、ISS/SIC日本支部会長としてのISW2011の成功に向けての抱負を述べる。ことに、会員の更なる結束と協力の重要性を強調する。
2. 第22回万国外科学会日本支部会議事録承認
3. 万国外科学会日本支部会会員動向（表1）報告（事務局）承認
4. 2006年万国外科学会日本支部会会計報告ならびに監査報告；田中雅夫教授。承認
5. 万国外科学会会長挨拶；北島政樹会長
 - (1) 万国外科学会 ISW 2007, Montreal大会の報告
Montreal大会は、多数の日本支部会会員の参加により盛会裏に終わることができたことを報告すると同時に、問題点についても言及された。ことにLOCの準備不足に伴う問題点が指摘された。
 - (2) Executive Council Meeting 報告
 - (1) 比企能樹教授、ISW 2007においてISS/SICの Honorary Member の称号を授与された。
 - (2) 山川達郎教授、ISW2007のVice Presidentをつとめ、ISS/SICのCouncil Member（2007～2011）ならびにmember of 2009 Congress Program Committee に指名された。

- (3) 北川雄光教授、ISS/SIC 日本支部長（National Delegate）に指名され、ISS/SIC Council Meetingにて承認された。
- (4) 渡辺昌彦北里大学教授；ISW2011のLocal Organizing Committee(LOC) のPresidentに氏名され、ISS/SIC Council Meetingにて承認された。
6. 渡辺昌彦教授、ISW 2011, Local Organizing Committee会長挨拶
ISWには特殊な運営方法があるようであるが、会員諸兄の協力のもと、ISW 2011の成功にむけて最善を尽くす旨の挨拶があった。
7. Integrated Societies 報告；特になし。
8. 機関誌World J. of Surgery報告；特になし
9. その他；

山川達郎記

Pfizer

オキサリジノン系合成抗菌剤
指定医薬品 処方せん医薬品 注意—医師等の処方せんにより使用すること

ザイボックス® 注射液 600mg
錠 600mg

ZYVOX®（一般名：リネゾリド）略号：LZD 薬価基準収載

■効能・効果、用法・用量および禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売 **ファイザー株式会社**
〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7
資料請求先：お客様相談室

2008年11月作成

注射用抗真菌剤 創薬 指定医薬品 処方せん医薬品®

イトリゾール®
注1% [200mg] 一般名：イトラコナゾール
Itrazole® Injection 1% 薬価基準収載

※注意—医師等の処方せんにより使用すること

「効能・効果」「用法・用量」「禁忌を含む使用上の注意」「効能・効果に関連する使用上の注意」「用法・用量に関連する使用上の注意」については、添付文書をご参照ください。

製造販売元（資料請求先）
ヤンセン ファーマ株式会社
東京都千代田区西神田3-5-2 <http://www.janssen.co.jp>

2007年10月

Venoglobulin-IH

血漿分画製剤（液状・静注用免疫グロブリン製剤）薬価基準収載

献血ウエノグロブリン®-IH ヨシトミ
生物学的製剤基準 ポリエチレングリコール処理免疫グロブリン（指定医薬品、処方せん医薬品）
Kenketsu Venoglobulin-IH YOSHITOMI 薬価基準収載

※〈禁忌〉〈原則禁忌〉〈効能・効果〉〈用法・用量〉〈使用上の注意〉等の詳細については、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元（資料請求先）
株式会社ベネシス
大阪市中央区平野町2-6-9

販売 **田辺三菱製薬株式会社**
大阪市中央区道修町3-2-10

VGX (B7) 2008年2月作成